

市内の墨書土器

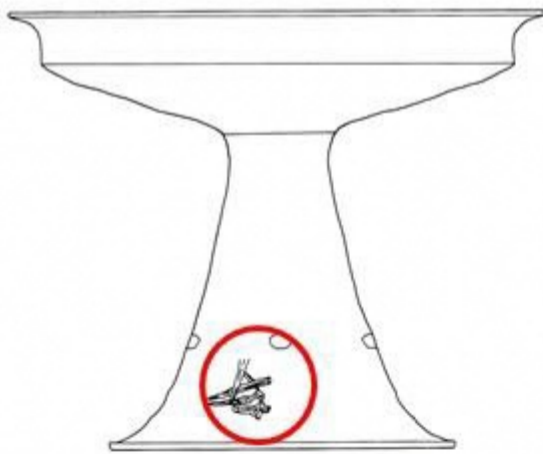
—あすみが丘を中心として—

令和2年9月27日（日）
あすみが丘プラザ

公益財団法人 千葉市教育振興財団
（千葉市埋蔵文化財調査センター）

塚原 勇人

1 文字の伝来（1）日本最古の刻書、墨書土器



刻書土器「奉」
三重県津市大城遺跡（弥生時代後期）



- 高環形土器の脚部に刻書
- 写真は上下逆
- 「年」という説もある。

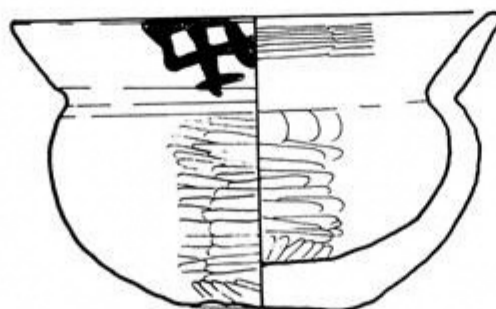


墨書土器「田」
三重県松坂市貝蔵遺跡（弥生時代終末期）

縮尺は不同
財団法人千葉県教育振興財団 2009
『房総発掘ものがたり』より引用

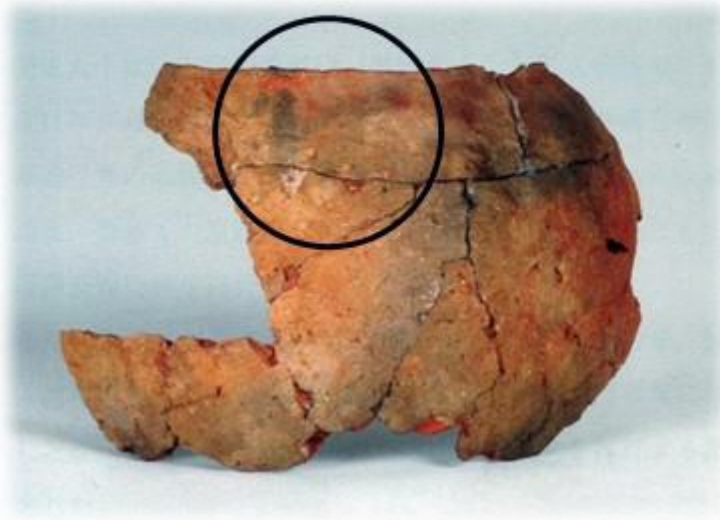


墨書土器「田」
三重県松坂市方部遺跡（古墳時代前期）



- 伊勢湾周辺の遺跡で文字と認められる資料が出土
- この地域の古墳時代前期遺跡からは、「北陸系」土器が多く出土
- 大陸文化が北陸を経由し伝来した可能性
- 古墳時代前期以降の伊勢湾周辺地域は東西の中継地点として発展し、文化や技術が房総半島にもたらされる

(2) 房総最古の墨書土器—流山市市野谷宮尻遺跡（古墳時代前期）—



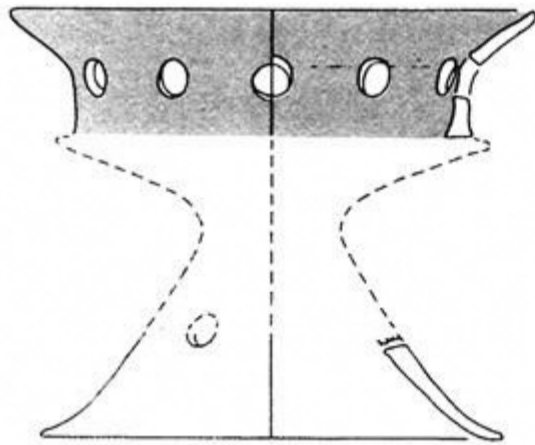
墨書土器「久」



赤外線写真



実測図



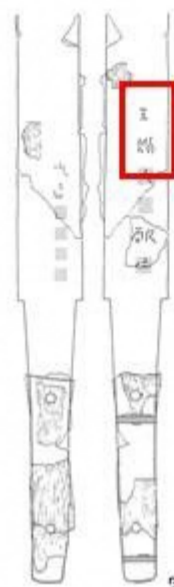
北陸系土器

- 流山市市野谷宮尻遺跡の古墳時代前期竪穴住居跡から出土
- 周辺地域には弥生時代の集落跡はなく、古墳時代前期になって大規模な集落跡が出現
- 遺跡からは、北陸・東海・畿内系の他地域の影響を受けた土器が出土
- 他地域からの集団移植が背景

財団法人千葉県教育振興財団 2006
『流山市市街地地区埋蔵文化財調査報告書1』より引用

2 房総における文字の広がり

(1) 鉄剣に記された文字—市原市稲荷台1号墳「王賜」銘鉄剣—



実測図



稲荷台1号墳全景

- 本格的な漢字の使用は、古墳時代中期以降
- 埼玉県行田市稲荷山古墳出土金象嵌鉄剣など
- 房総では、市原市稲荷台1号墳「王賜」銘鉄剣
- 畿内王権と被葬者との関係性
- 地方中小豪族層に文字の広がり可能性

市原市教育委員会 市原市文化財センター 1988
『「王賜」銘鉄剣概報』より引用

(2) 瓦に記された文字—印旛郡栄町五斗蒔瓦窯跡（飛鳥時代）—

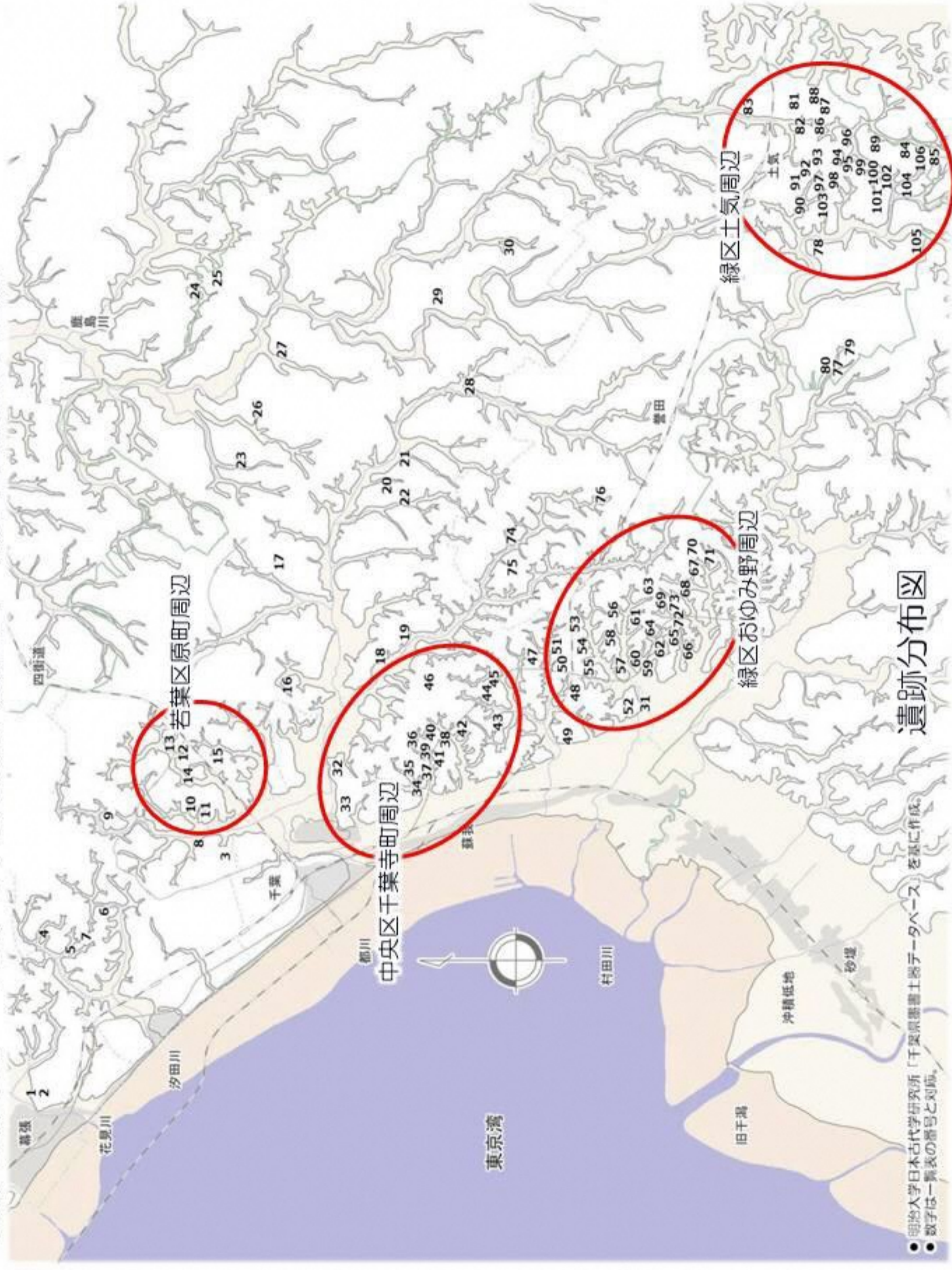


刻書「朝布」

財団法人印旛郡市文化財センター 1997
『龍角寺五斗蒔瓦窯跡』より引用

- 龍角寺に供給していた瓦窯の一つ
- 「朝布（あそう）」「服止（はとり）」などが刻書された瓦
- 現在の龍角寺周辺の地名にみられる「麻生」「羽鳥」に対応
- 龍角寺造営のさいに、地域ごとに負担を担ったと推定
- 瓦製作集団にも文字の使用が広がっていた可能性

3様々な文字 (1) 市内における墨書・刻書土器出土遺跡



遺跡分布図

● 明治大学日本古代学研究所「千葉県墨書土器データベース」を基に作成。
 ● 数字は一覧表の番号と対応。

市内里吉・刻書土器出土遺跡一覧表

区	番号	遺跡名	所在地	区	番号	遺跡名	所在地	区	番号	遺跡名	所在地
花見川区	1	原塚台遺跡	源花町	右衛門区	28	駒込遺跡	五十土町	緑区	55	有吉遺跡	おゆみ野
	2	新道遺跡	源花町		29	片貝輪遺跡	片貝町		56	有吉南目塚	おゆみ野中央
	3	砂子遺跡	作部郡町		30	芋ノ谷東遺跡	和泉町		57	堀ノ台遺跡	おゆみ野中央
稲毛区	4	芝原遺跡	宮野木町	中央区	31	神門遺跡	宮生実町	緑区	58	有吉城跡	おゆみ野
	5	宮野木原遺跡	宮野木町		32	矢作目塚	矢作町		59	伯父名台遺跡	おゆみ野南
	6	下田遺跡	宮生町		33	堀川城跡	交鼻		60	堀名崎遺跡	おゆみ野南
	7	馬場遺跡	宮生町		34	中野台遺跡	千歳寺町		61	木戸作遺跡	おゆみ野中央
	8	脚形遺跡	作部郡町		35	地蔵山遺跡	千歳寺町		62	今台遺跡	おゆみ野南
	9	餅ヶ崎遺跡	源町		36	松ヶ丘遺跡	松ヶ丘町		63	六通遺跡	おゆみ野中央
	10	海老遺跡	みつわ台		37	萬谷津遺跡	千歳寺町		64	堀名崎古墳群B支群	おゆみ野南
	11	戸張作遺跡	東奇山町		38	大北遺跡	高崎町		65	堀名崎古墳群C支群	おゆみ野南
	12	山王遺跡	原町		39	観音塚遺跡	千歳寺町		66	春日作遺跡	おゆみ野南
	13	根崎遺跡	原町		40	宮崎第1遺跡	高崎町		67	太田法持遺跡	おゆみ野南
右衛門区	14	台畑遺跡	原町	41	山ノ神遺跡	高崎町	68	ムコアラク遺跡	おゆみ野南		
	15	高島第2遺跡	高島町	42	大森第1遺跡	大森町	69	小倉沢古墳群	おゆみ野中央		
	16	立木宮遺跡	加賀村町	43	西花遺跡	大森町	70	大瀬野北遺跡	おゆみ野南		
	17	味所野野遺跡	坂月町	44	台津遺跡	花輪町	71	バク子八遺跡	おゆみ野南		
	18	西原橋遺跡	大部町	45	池田古墳	花輪町	72	神明社南遺跡	おゆみ野南		
	19	城山城跡	大部町	46	仁戸名遺跡	仁戸名町	73	源塚台遺跡	おゆみ野南		
	20	うならす遺跡	多部田町	47	横作遺跡	赤井町	74	新山遺跡	半山町		
	21	内野遺跡	多部田町	48	大道遺跡	生実町	75	越川戸遺跡	半山町		
	22	ムグリ遺跡	多部田町	49	生実城跡	生実町	76	上深見沢遺跡	豊田町		
	23	中原遺跡	合親町	50	藤ヶ谷津遺跡	生実町	77	西大野第1遺跡	大木戸町		
24	端山基遺跡	下泉町	51	笹台沢遺跡	生実町	78	立山城跡	大木戸町			
25	大樽台古墳群	上泉町	52	古城・小弓城跡	宮生実町	79	大野第1遺跡	大木戸町			
26	宇津志野遺跡	東科町	53	生沢古墳群	おゆみ野	80	大野第7遺跡	大木戸町			
27	川崎遺跡	東科町	54	高沢遺跡	おゆみ野	81	黒八千遺跡	あすみが丘東			

所在地が日本古代学研究会「千原遺跡集」(藤子一タハス)を引用し作成
 数字はの遺跡は数字の遺跡で、

(2) 古代における千葉市の郷名比定

下総国千葉郡

千葉郷 (ちば)

中央区周辺一帯

池田郷 (いけだ)

都川下流以南、中央区千葉寺町周辺

三枝郷 (さいくさ)

葭川流域、中央区作草部町周辺

糟依郷 (かそり)

都川中～上流域、

若葉区加曾利町周辺一帯

山家郷 (やまいえ、やまか)

花見川以西の千葉市西北部周辺

船橋市南東部・習志野市・八千代市の一部

山梨郷 (やまなし)

四街道市山梨周辺

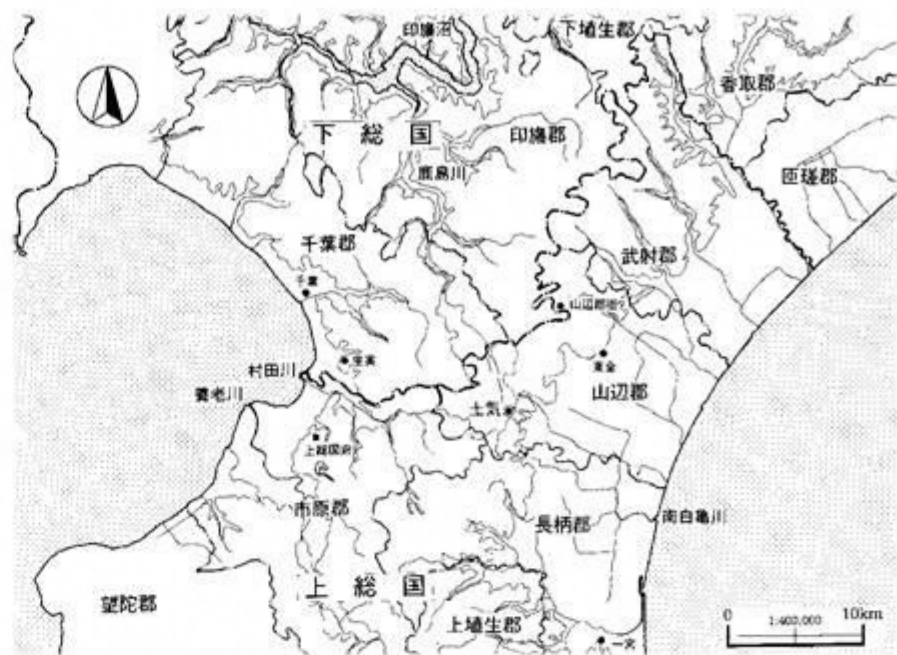
物部郷 (もののべ)

四街道市物井周辺

※現在の土気地域

上総国山辺郡草野郷 (かやの)

または高文郷 (たかふみ)



(3) 書かれた文字

① 役所関連施設



「厨」猪鼻城跡 (33)

厨：役所関連施設の台所

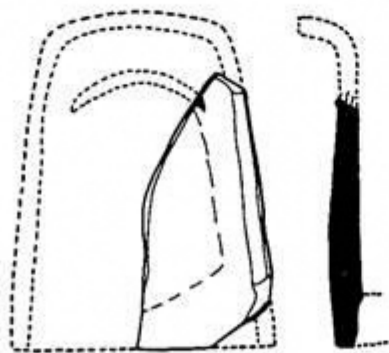
※番号は分布図・一覧表と対応

古代の硯



圈足円面硯 (けんそくえんめんけん)

猪鼻城跡



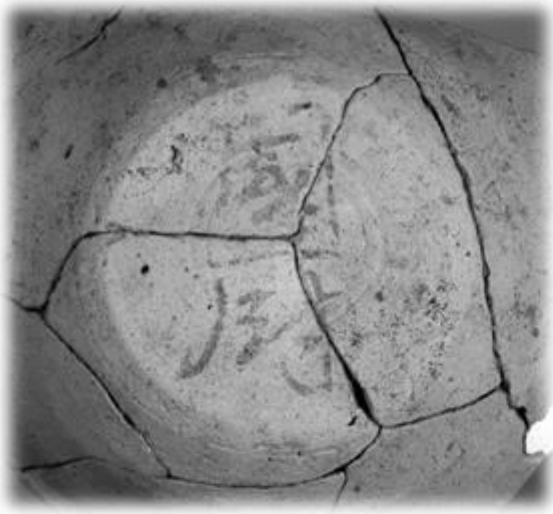
風字硯 (ふうじけん)

印旛郡栄町向台遺跡



須恵器片転用硯 (すえきへんてんようけん)

横芝光町芝崎遺跡



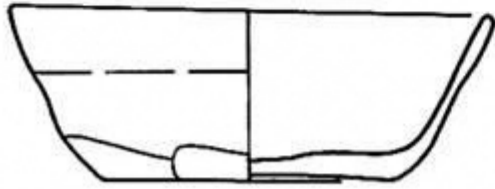
「國厨」中鹿子第2遺跡（85）



「子驛口」観音塚遺跡（39）



腰帯具 観音塚遺跡



「大新家」高沢遺跡（54）

子：北を表すか？
驛：河曲（かわわ）駅家を指すか？
河曲駅家：新宿・中央付近を推定地

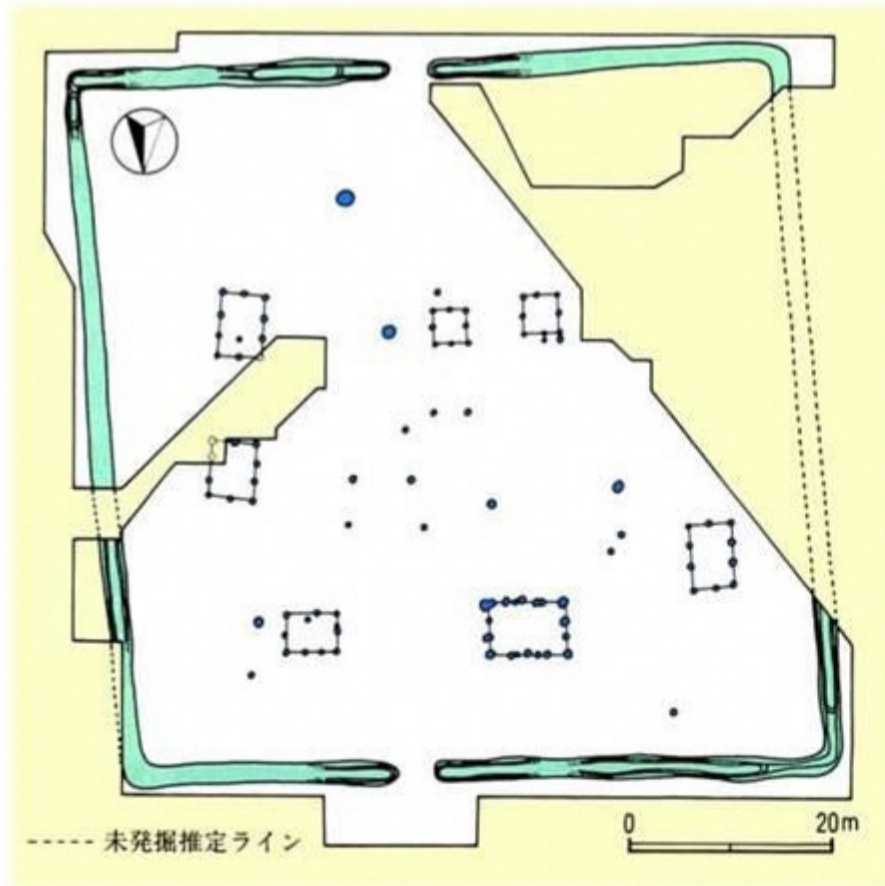


腰帯具（ようたいぐ）模式図（正倉院例）

大：馬に家の印をつける焼印を表す
おゆみ野周辺で牧の経営を行っていた豪族層を表すか？

財団法人千葉県史料研究財団 1998
『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』より引用

②豪族居館跡—芳賀輪遺跡（29）—



豪族居館跡平面図

財団法人千葉県史料研究財団 1998
『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』より引用

- 遺跡規模は約15万m²
- 遺跡範囲の約15%を調査
- 竪穴住居跡124軒、掘立柱建物跡152棟
- 遺跡の南東隅から見つかった豪族居館跡
- 方形（一辺約70m）の溝に囲まれた中に7棟の掘立柱建物跡



「殿原」

殿原：貴人の尊称



「厨」

③国境の大集落—土気遺跡群—

土気周辺 地形図



④土気にいた役人層—土気東遺跡群—



「殿原」黒八ギ遺跡 (81)



把手付中空円面硯
(とってつきちゅうくうえんめんけん)
五十石遺跡



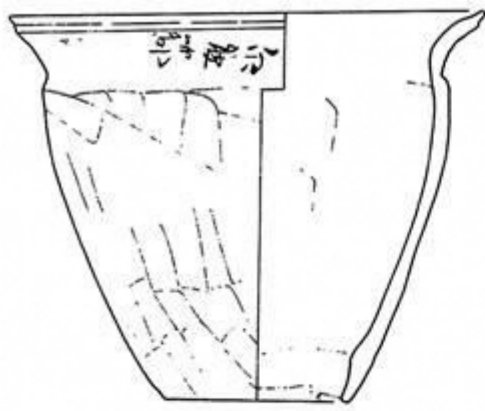
「榼」黒八ギ遺跡
蛇紋岩製



計量枡か？
黒八ギ遺跡

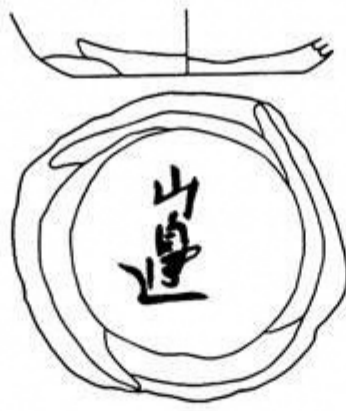
- 土気地区の核となる黒八ギ遺跡
- 多数の墨書、刻書土器が出土
- 榼は竿秤のおもり
- 平城京出土の計量枡と酷似した須恵器
- 度量衡に関わる遺物
- 役人層の存在

⑤地名



「印波郡」

成田市大袋腰巻遺跡



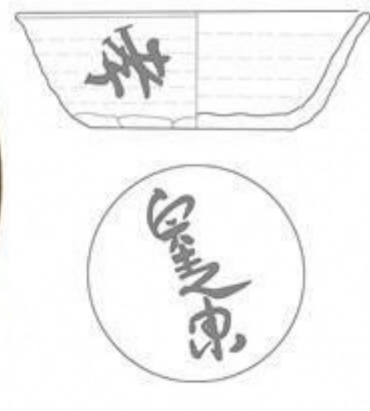
「山邊」

大網白里市砂田中台遺跡



「穴走」

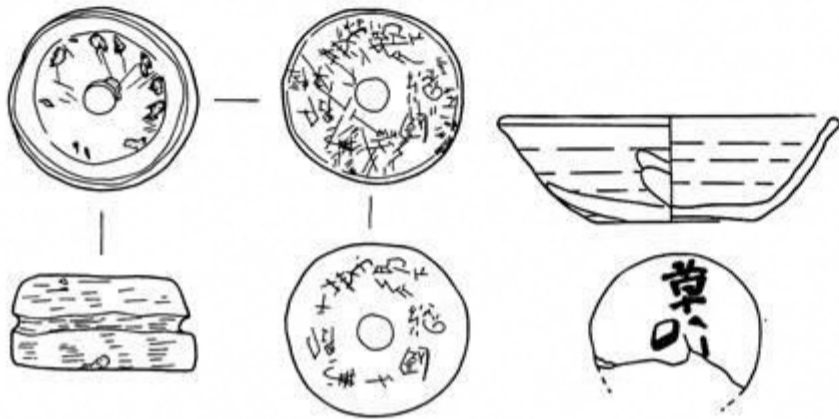
黒八ギ遺跡 (81)



「穴走東」か？

黒八ギ遺跡

人の移動を伺わせる資料



「下総國千葉郡千葉郷」紡錘車

「草野」

大網白里市南麦台遺跡

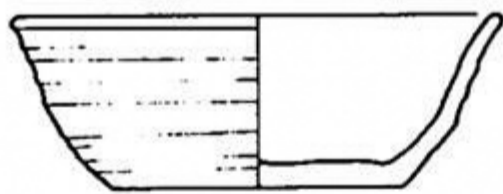


「三枝」
黒八ギ遺跡

- ・遺跡の郷名比定地と異なる地名を記した資料
- ・人の移動を伺わせる例

財団法人千葉県史料研究財団 1998
『千葉県の歴史資料編考古3 (奈良・平安時代)』より引用

⑥人名



八千代市北海道遺跡

「丈部乙刀自女形代」
「希子」

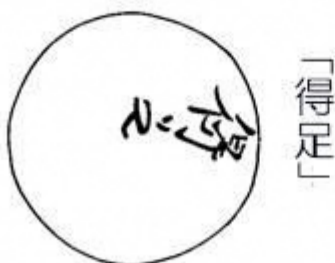
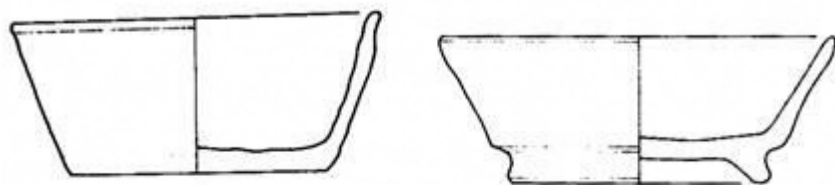
- ・氏族名と人名が書かれた墨書土器は下総地域に集中する傾向



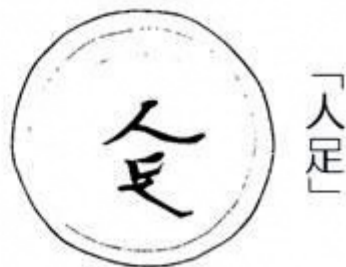
「日奉甲宋」

黒八ギ遺跡 (81)

- ・日奉部に関する人物の可能性



「得足」



「人足」

- ・男性の名前には「足」(たり)・「麻呂」(まろ)、女性の名前には「刀自女」(とじめ)

八千代市白幡前遺跡

「□□部稻□」



黒八ギ遺跡

財団法人千葉県史料研究財団 1998
『千葉県の歴史資料編考古3 (奈良・平安時代)』より引用

⑦寺・仏を書く 上総国分寺



・金寺は「金光明四天王護国之寺」=僧寺、法花寺は「法華滅罪之寺」=尼寺を示す

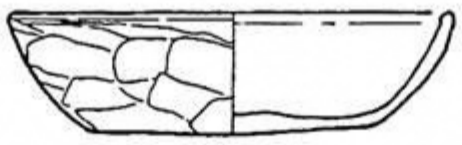
「金寺」

市原市上総国分僧寺跡

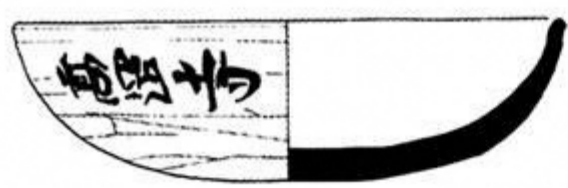
「法花寺」

市原市上総国分尼寺跡

郡の寺



郷の寺



「高正寺」

佐倉市長熊廃寺

正二岡

・印旛郡長熊郷内にある寺跡



「武射寺」

山武市真行寺廃寺

・武射郡衙（嶋戸東遺跡）に近接した場所にある寺跡
・武射郡の拠点となる寺院

財団法人千葉県史料研究財団 1998 『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』より引用

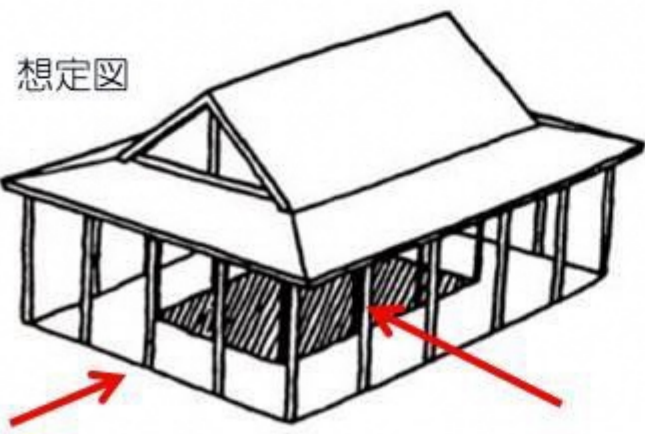
集落の寺—村落内寺院—



越川戸遺跡（75）航空写真



四面廂付建物跡
(しめんびさしつきたてもものあと)

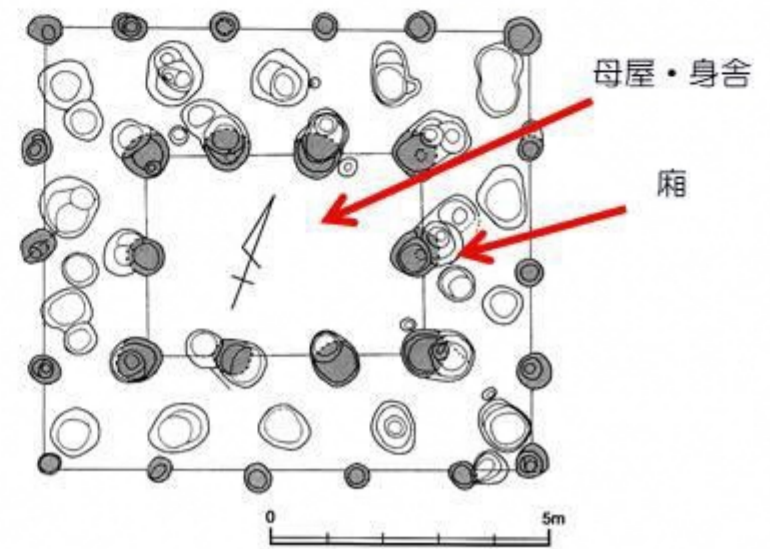


想定図

廂
(ひさし)

母屋・身舎 (もや)
瓦塔や瓦堂、仏像などを安置

平面図



母屋・身舎

廂

・屋根を支える主要な柱穴の外側に、廂を支えるための小規模な柱穴が巡る建物

・廂が四方に付くことから、「四面廂付建物」と呼称

・柱穴の切り合い関係から、5回の建替えを推定

瓦塔・瓦堂



谷津遺跡（44）出土瓦塔・瓦堂

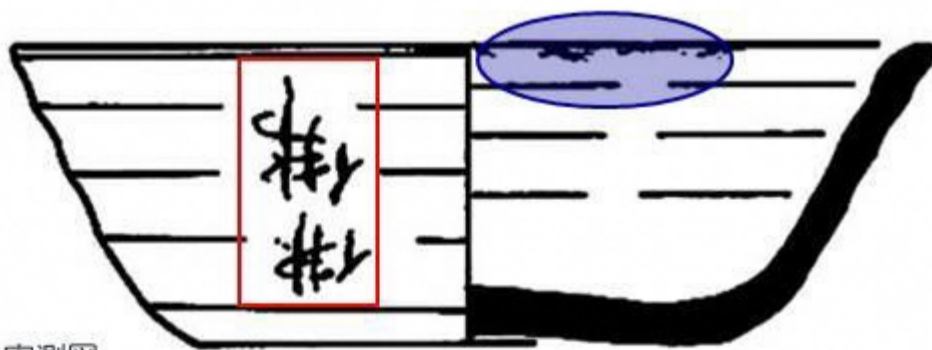
財団法人千葉県史料研究財団 1998
『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』より引用



越川戸遺跡（75）出土瓦塔片

- 木造建築の塔や堂を模して作られた小型の塔や堂
- 奈良時代から平安時代（8～9世紀）にかけて作られ、北陸地方、東海地方、関東地方で多く出土
- 県内では、千葉寺などの古代寺院での出土例もあるが、村落内寺院の本堂と考えられる遺構に伴って出土することが多い
- 8世紀中頃までの瓦塔・瓦堂には須恵質のものが多く、屋根瓦から建物の細部まで忠実に模倣
- 8世紀末期頃からは数多く作られるようになり、土師質が中心となって、建物表現も省略が進む

灯明具



越川戸遺跡（75）

実測図
□：墨書
○：油煙付着

- □縁部の縁に油煙が付着
- 食膳具のほかに灯明具としても使用



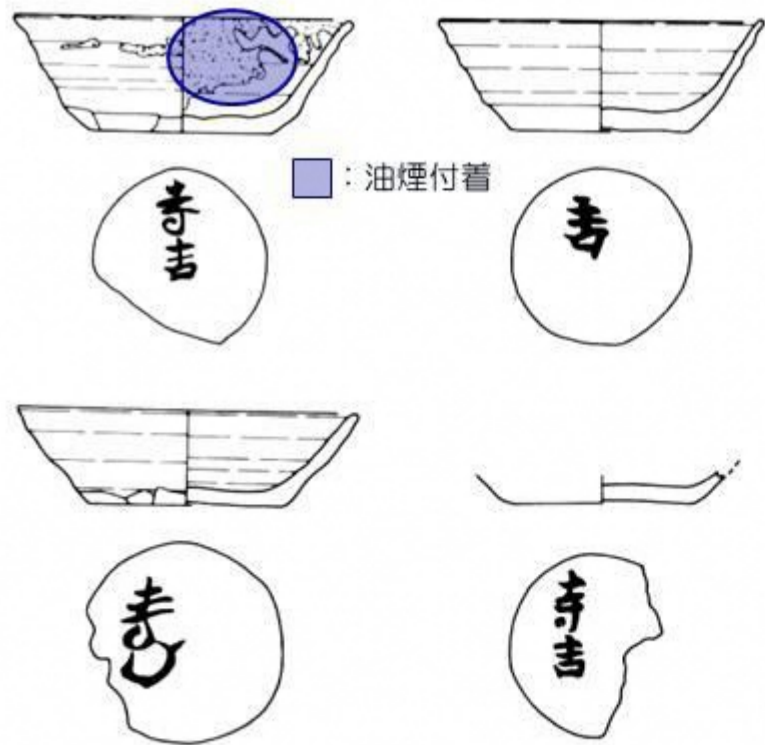
墨書「佛佛」



灯明用土器模造品点灯状況

上高津貝塚ふるさと歴史の広場 1998
『仏のすまう空間—古代蘇ヶ浦の仏教信仰—』より引用

壺G—台畑遺跡（14）—



- 村落内寺院を推測できる建物跡は未検出
- 壺Gや「寺吉」または「寺」墨書土器が出土
- 当時の遺跡に僧侶の存在

- 奈良時代中頃から平安時代初めにかけて静岡県の窯で生産された長頸壺
- 平城京の発掘調査で発見され、須恵器の壺の形状をアルファベット順に分類した時に「G類」
- 用途は、仏具の花瓶説、堅魚の煮汁容器説、兵士の水筒説などあり、いまだに定まっていない
- 県内では仏教と関わりのある遺跡から見つかることが多い傾向。

鉄鉢形土器（てっばつがたどき）・火舎（かしゃ） —文六第6遺跡（95）—



鉄鉢形土器



三彩火舎

- 形状の一般的な特徴は、底が尖り、上にいくにしたがい大きく開き、口縁部が「く」の字状に強く内側に曲がること
- 僧侶の托鉢や食器、仏への供養具
- 鉄製・瓦製のものとし、破損した場合は修理して使うように定められていた
- 文六第6遺跡例では、表面の黒い部分に漆が塗られていることを確認
- 鉢を黒く仕上げることは、仏教經典に見える「僧侶がもつべき瓦鉢・鉄鉢も熏（く）さなければ、聴（ゆる）されない。熏すことによって垢膩（こうじ、垢や脂などの汚れ）を受けなくなるからである。」という可能性が指摘

- 中国唐の時代に発達した香炉の一種
- 罈（つば）のある縁をもち短い三脚がついた火炉
- 通常は蓋がつく
- 正倉院には、大理石と金銅鑄造の大型の火炉が保存
- 県内で見つかった例は少ない

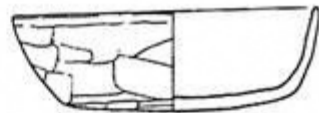


墨書「壽寺」

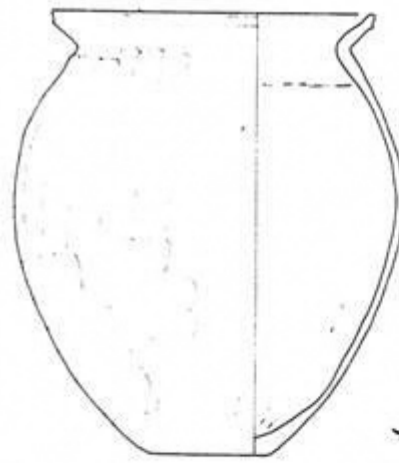
⑧神への祈り



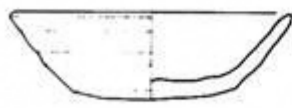
「国主神奉」



「尊神」



「匝瑳郡物部黒万呂代奉女神奉」
逆瑛郡物部里下士依示
三美女



芝山町庄作遺跡

印西市西根遺跡



ムコアラク遺跡 (68) 出土紡錘車「口神申如林秋界南無為」
※反時計回り

- 房総では特に下総国印旛沼周辺を中心に分布
- 神への捧げや個人の延命や祓いを表す
- 市内では、あまり見られない
- ムコアラク遺跡例は、人の移動によるものか？

財団法人千葉県史料研究財団 1998
『千葉県の歴史資料編考古3 (奈良・平安時代)』より引用

⑨祈りの場—黒ハギ遺跡 (81)—



井戸状遺構



- 性格不明な遺構
- 大きく深く掘り込んでいるが、水が湧き出すまでは掘りこまない
- 覆土中から多くの墨書、刻書土器が出土
- 井戸を模した穴を掘りこんだ祭祀の場？



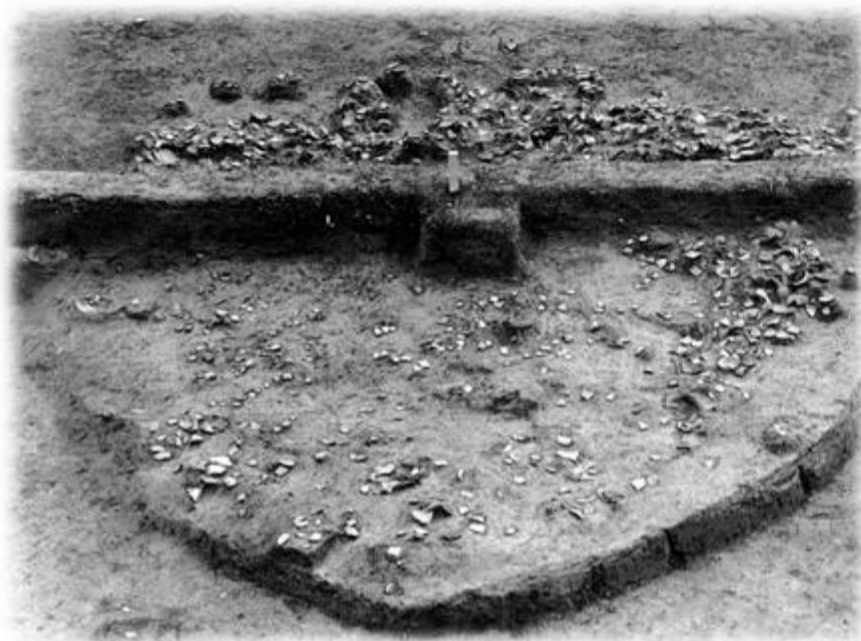
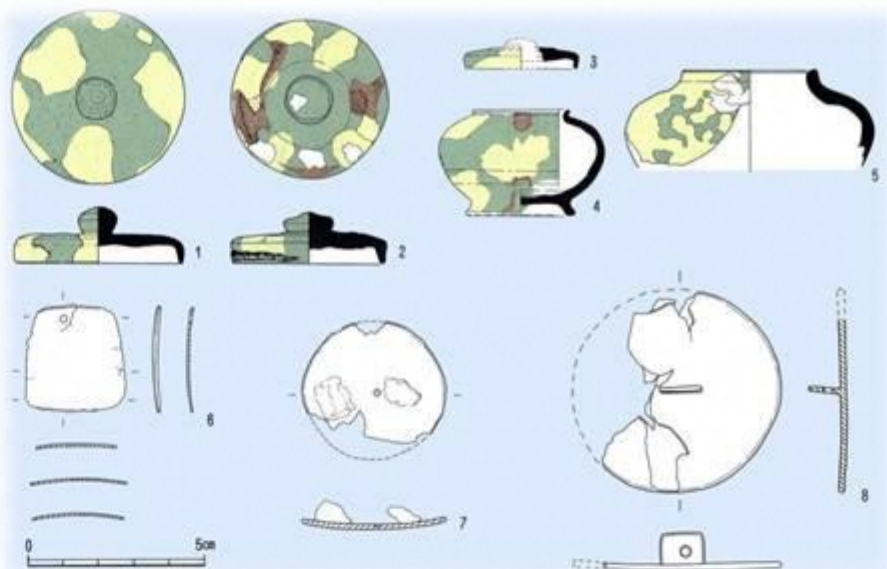
「野井」



「殿原」

⑩祈りの場—種ヶ谷津遺跡 (50) —

- 古墳時代後期竪穴住居跡廃絶後の窪地から、奈良時代土師器・須恵器などが集中して出土
- 一般的な集落跡からは、あまり見つからない特殊な遺物も出土
- 何らかの祭祀行為があったと推測
- 1～5：奈良三彩（ならさんさい）陶器
- 6：佐波理（さはり）製垂飾
- 7・8：鉄製儀鏡（ぎきょう）



財団法人千葉県史料研究財団、1998
『千葉県の歴史資料編巻3(奈良・平安時代)』より引用

⑪則天文字 (そくてんもじ)

- 中国、唐代、中国史上ただ一人の女帝「武則天」（則天武后）が7世紀末に制定した独特の文字
- 日本には奈良時代に伝わる
- 権力を誇示するため、個人的な好みを反映させるため
- 「國」の「或」の部分「惑」に通じるので不吉だとして「八方」に変えた
- 国内で則天文字を知りえる人びとは限られており、僧侶などによって普及した可能性が高い
- 中国では、武則天の失脚とともにほどなく忘れ去られたが、日本では「囿」の字が徳川光圀の名前に



「囿」中鹿子第2遺跡 (85)

則天文字の種類

原字	照	天	地	日	月	星	君	臣	人
則天文字	照	元 丙	峯	𠄎 乙	囿 子 𠄎 𠄎	○	香 𠄎 𠄎	忠	至
	載	初	年	正	授	證	聖	国	
則天文字	𠄎 𠄎	𠄎 𠄎	𠄎 𠄎	𠄎	𠄎 𠄎	𠄎 𠄎	𠄎	𠄎	



「乙」荻生道遺跡 (87)

⑫ 吉祥句



「福万」

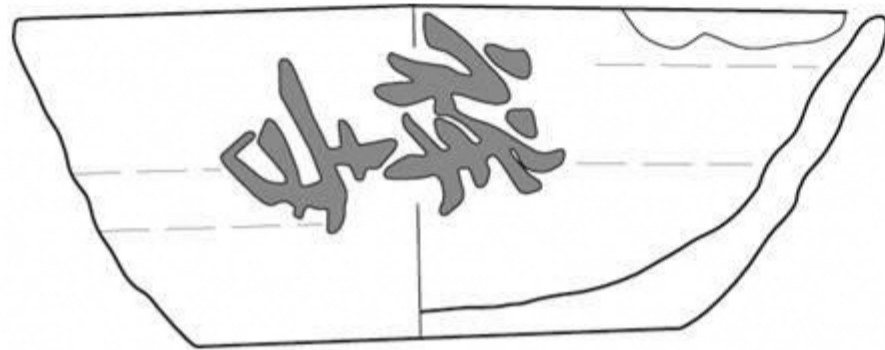


「福」



「富主」

黒ハギ遺跡 (81)



「祥寺」

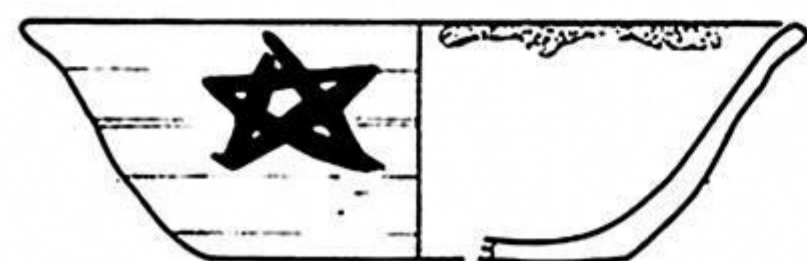
文六第6遺跡 (95)

- 市内では、「福」「祥」「富」「万」「壽」など吉祥句と考えられている墨書土器が多数出土
- 「寺」「主」「得」「大」と組み合わせる例が多いが具体的な内容は不明

⑬ 古代のまじない



「九字切り」
芳賀輪遺跡 (29)



「五芒星」
柏市花前Ⅰ遺跡

- 道教や密教、陰陽道、修験道にかかわると思われる、まじないの記号
- 芳賀輪遺跡例では、土器の底面に四角に囲まれた中に9本の線が刻んでいる
- 道教や密教、修験道における護身の呪文である九字切り「臨兵闘者皆陣列財前」を表す
- 市外の遺跡からは、五芒星が記された土器が出土
- 中国の五行思想や陰陽道における「木火土金水」の五行思想を表す
- 五芒星の墨書土器は、市内からは未検出

4まとめー市内の墨書土器ー

- ・市内では奈良時代から平安時代にかけて106ヶ所の遺跡
- ・分布状況→若葉区原町周辺、中央区千葉寺町周辺、緑区おゆみ野周辺、緑区土気地域に集中する傾向
- ・古代における役所や宗教の関連施設があった遺跡
- ・地域の中核的な集落には筆を使い、文字を書くことができる知識人層の存在
- ・内容は様々であり、一文字または二文字のものが大半
- ・施設（國厨、厨など）・地名（穴走など）・人物名（日奉甲宋など）・貴人の尊称（殿原）・仏教関連（寺、佛など）・吉祥句（福万、福、富主、祥寺など）
- ・官位名、呪術文言、人物絵・神への信仰関連の資料は現状ではあまり見られない
- ・民衆全ての識字率の向上に結びついていたかは不明
- ・僧侶によるムラへの布教や土地の開発行為に伴う技術集団の移住